

の情を目ざますに足る人格はこれをどこに求めることが出来るであらうか。それは先づ以て被教育者の環境の中に見出されることが出来る。勿論、彼の環境の中には畏敬に値しない人格の多いことは事實である。しかしまた畏敬に値する人格のあることも否定することは出来ない。教育者は先づこの人格に對して被教育者の心の中に畏敬の情を涵養せねばならぬ。次に、かかる畏敬に値する人格はこれを歴史的な觀念的の人格の中に求めることが出来る。偉人、傑士に對する尊敬の念を培ふことを忘れてはならない。ソークラテース、プラトーン、ルイテル等はかかる人格でなくて、何であらう。イエスもまたかかる人格として見做されてよい。東洋に於て、特に我が國に於てもかかる幾多の人格を求めるとはかたくはない。更に進んで我々は畏敬に値する眞の觀念的の人格を社會に於て認めなければならぬ。各共同體は一の全體意志をもち、それ自らの意識を、その過去、現在、未來の意識をもつてをる。ウントがいつたやうに、社會は廣義に於ける人格であり、全體人格である。かかる全體人格としての社會に對する畏敬の情

はやがてこれ愛國心であり、愛郷心であり、愛團體精神である。終りに、畏敬の情を最も力強く目ざますものは最高の人格としての神である。世界の根據としての神、それは人間の理想であり、この理想に對する畏敬の情は被教育者の心の中に早くから根ざすやうに注意せられるべきである。

三つの心的基本現象に適應して、統覺的思惟によつて創造された三つの大きい文化組織がある。即ち、眞なるもの、善いもの、美しいもの、或は科學、道德、藝術がそれである。さて科學に關していへば、被教育者がその祖先以來の科學的遺産を受けとる際に眞の生き生きとした知的感情を伴ふ。従つてかかる文化の一領域に屬する理論的陶冶財に伴ふ知的感情を、換言すれば眞なるものへの熱烈なる感情を養ふことを忘れてはならぬ。これ形式的に制約せられた表象感情の陶冶の第一の方面である。次に道德に關していへば、或は倫理的體系に就いて考へるならば、ひとつの道德的理論の建設のうち、その原因をもつところの、形式感情が存在することを注意する必要がある。ひとつの倫理的原理から導き來られる幾多の法則の正當性、そ

れ等法則相互の調和、實際生活の個々の場合に對するそれ等法則の矛盾することなき適用、これ等のことは實に我々の快感を作興するのである。首尾一貫せる倫理的體系を示すところの、この純粹に形式的に制約せられた感情は決して等閑に附せられるべきではない。ストア派の人々、スピノザ、カントなどの倫理的體系が多くの人々の心を惹きつける力をもつのは、その體系が首尾一貫してをることにより、負うてをることが多い。宗教の説く神の平和は、大體に於て、宗教的世界觀の統一から生ずるところの、この形式的に惹き起された感情に基づくのである。其故に教育者は善なるものに對するこの形式的感情を陶冶することに意を用ひねばならぬ。これ形式的に制約せられた表象感情の陶冶の第二の方面である。最後に藝術に關しては、いかに形式と内容を十分に分けて考へることは困難である。ひとつの藝術作品が精神的になればなるほど、その作品は内容によつて作用せられ、その内容が我々の心の中に惹きおこす幾多の思想によつて作用せられる。しかし、例へばひとつの劇が伴ふ形式的感情、即ち、統一的な、嚴密に

纏りのついてをるその構造に伴ふ美的感情に對して被教育者の眼を向けしめることを要する。換言すれば、美なるものに對する形式感情の陶冶を缺いてはならぬ。これ形式的に制約せられた表象感情の陶冶の第三の方面である。

以上の感情の陶冶に關する叙述を總括して、ここに一言したいことは、今日迄よりも一層多く教育及び教授に於て感情を發展せしめ、教育の目的のために利用することを努めねばならぬといふことである。生のうちに占める感情生活の領域に對して、從來よりも一層力強く配慮せられるべきことを高調せねばならぬ。偉大なる思想と行動とが感情から生ずるといふのは、我々の輕視すべき逆説であらうか。

第五編 社會教化の問題

人間が陶冶された人格となるために必要な教育的作用が家庭及び學校に於て行はれることは勿論であるけれども、それ等の場所以外に於て廣く社會の文化的施設を通じ働くことを注意しなければならぬ。近時、世界の各國に於ける社會教化的の意味をもつた文化的施設の著しい發展は實に目ざましいものがある。我が國に於けるかかる施設が甚しく爲政者の注意を惹くに至つたのは明治三十年代に入つてからであつて、即ち三十六年には公衆體育の爲に學校體操場の開放を、又校舎を公共の爲に使用することを獎勵し、圖書館の設置をすすめ、四十四年に至つて通俗教育調査委員會を設けて、通俗讀物の編纂、懸賞募集、通俗圖書館、巡廻文庫、展覽事業、幻燈の映畫及び活動寫真フィルム⁽¹⁾の選擇調査、説明書の編纂等並びに講演會、講演資料編纂等を掌るものとし、又直轄學校に通牒を發して學校を中心として通

俗教育の爲に盡力すべきことを命じた。此の通俗教育調査委員會は幾何もなく廢止の運命に遭つたけれども、今日の社會教育施設の基礎は實に此の委員會にあるものと云つてよい。其の後大正十年に至つて通俗教育の稱呼は、文部省の事務關係に於ても社會教育と改めることになり、學校教育と並んで躍進的發展を見るやうになつた。⁽¹⁾之を要するに、家庭及び學校以外に於ける教育的作用の重視こそ文化共同體の自覺の高まつて來た一つの證據であつて、この意味に於て我々は社會教化の本質とその方法とを考察するのである。

第一章 社會教化の目的

第一節 社會教化の對象及び意義

社會教育といふ概念は、これを廣義に解するとき、諸般の社會生活が個々の精神並に身體に及ぼす意識的又は無意識的影響を意味するのである

(1) 關屋龍吉、教育叢本、二七六頁—二七七頁。

が、狹義に於ては家庭教育及び学校教育と相對し、普通教育を卒へた後尙進んで高等の教育を受け得ないもの、即ち一般民衆に對し、補習的に種々の教育を施し、かくして学校教育の効果の維持發展を企圖することを意味する。これが世間一般に行はれてを考であるが、しかし果してかくの如く社會教化の概念を規定してよいであらうか。

家庭教育の缺陷を補ふべき社會的施設又は家庭教育を補充して完全ならしめる文化的機關の必要を現代の社會は感じてゐないであらうか。更に義務教育それ自らがかかる施設と相俟つにあらざればその十分な結果を期待し得ないことはここに説くまでもない。其故に、社會的施設を通じて行はれる教育的作用は既に幼兒及び兒童をもその對象としてもつてをるのである。

現今義務教育を卒へて中等普通教育を受けてをるものは極めて少數であり、更に高等程度の教育を受けるものに至つては九牛の一毛にすぎない。そこにまた種々の程度の社會化的施設の存在を必要とする理由がある。

よしや、中等及び高等の教育を學校に於て受けることが出來たとしてもなほかかる學校教育それ自らのみでは不十分あつて、どうしてもそれに伴ふ諸般の文化的施設と協同の歩調をとらねばならぬ。かくしてのみ、我々は眞に陶冶せられた人格を作り出すことが出來るのである。

かくの如く考へてくれば、社會教化の對象は家庭の成員、學校の兒童、生徒、學生を除外した他の一般民衆であるといふことは出來ず、また家庭教育の作用及び學校教育の作用を直接に受けるものを除いた外の人々であるともいはれない。家庭教育、學校教育、社會教化を單に時間的順序として考へてはならず、これ等の三つは陶冶といふ一つの作用の三面にすぎないといはなければならぬ。其故に、家庭教育の對象は同時に學校教育、社會教化の對象たり得るのである。否、學校教育、社會教化の對象たることによつてのみ、家庭教育は陶冶といふ一つの作用から孤立し、従つてその教育的意味を失ひ、又は不十分にする危険から免れるのである。同じことが學校教育、社會教化に就いてもいはれる。

人或は、かく考へることによつて家庭、學校の存在理由を失ひはしないか、又は少くとも弱めはしないだらうか、と思ふかもしれない。しかし、それは何等問題とするには足りぬ。何故ならば、陶冶される人間は家庭、學校、社會に於ても常に同一であるからである。ただ、その人間を陶冶するための陶冶財又は陶冶價値の提供の仕方を異にするのみである。従つて家庭、學校、社會はその陶冶財又は陶冶價値の特殊なる提供の仕方にて於てそれ等の特殊なる存在理由をもつことが出来る筈である。それ等の一つが他に對し優越なる位置を占めるといふことはいはれぬ。

しかし、かくの如く社會教化の概念を解するとき、それは前に述べたいはゆる廣義の社會教育を意味することにはならないかといふ疑問が生ずるかも知れない。けれども、我々は既に教育又は陶冶を解して教育又は陶冶しようとする意志を前提する意識的の行動としたのであるから、ここに社會教化が陶冶の作用を意味する以上、それは社會生活から來る無意識的影響を意味することは出来ない。文化共同體がその成員を陶冶しようとする

する意志の具體的發現としてのみ、その文化的施設は社會化の意味を獲得するのである。其故に、社會教化とは教育作用の全範圍の中、家庭及び學校以外の社會的施設を通して行はれる部分を總稱するのである。(1)

第二節 社會教化の目的

教育又は陶冶が統一せる一つの作用である限り、その目的もまた一つあつて多數あることは出来ない。従つて陶冶作用の一面をなす社會教化の目的も個々の人間をして自由に自律的に自己を處して價値の領會と創造とをなすことを得しめ、やがて文化共同體の成員の全生活を道德化し、以てその文化の維持發展を圖るところにあらねばならぬ。

しかし、同一の目標を目ざすとはいふものの、家庭、學校に於ける陶冶作用の形式又は内容と社會教化のそれ等とは、その様相を異にする。家庭教育は自然的であり、學校教育は多少強迫の性質を有するが、社會の教化は全然自由でなければならぬ。(2) 學校教育の整然たる組織に比すれば、社會教化は

(1) 乙竹岩造、新教育學要論、三七三頁、
(2) 篠原助市、教育學綱要、二四四頁、

自由な組織をもち、且つ學校教育が主として原理的、基礎的陶冶に關係するに對して、社會教化は専ら實際的、應用的方面の陶冶を志す。かくの如き特質を有する社會教化は人間陶冶の最高目標に達するための部分目的として特に次の諸點を注意する必要がある。

- 一、健全なる道德的精神の涵養
 - 二、公民的訓練
 - 三、社會的生活に於ける共働の習慣養成
 - 四、職業教育の準備及び完成
 - 五、趣味の指導
 - 六、體育及び保健に對する留意
- 近時社會狀態の變化につれて、その中に漂ふ幾多の少青年乃至成人がその道德的精神に動搖を來し、ややもすれば放縱に流れ危激に奔る傾向のあることは争はれぬ事實である。其故に社會教化の根柢には、これ等の缺陷を防止し、進んで確固たる道義的精神の樹立を圖る意志が働いてをらねば

ならぬ。

民衆の自律自治は近代の政治的指導思想である。従つて公民としての資格は陶冶された人格の内容をなす重要な契機となつてをる。誤れる利己主義を轉回して正當なる共働共榮へ導くことは現代の社會生活に於ける必須條件である。これ、社會教化に於て、公民的訓練と社會的生活に於ける共働の習慣養成とを特に注意する必要がある所以である。

社會の一員としての生活は或る職業を通じてその文化共同體の文化維持發展に貢獻する生活に外ならぬ。そして、社會教化の對象たるものは、やはり、現に或る職業に従事してをるものであるか、然らずんば、やがて何等かの職業に就かうとするものである。其故に、それぞれの職業に關する知識技能を授け、進んで職業のもつ文化的意味を領會せしめようと努めることが大切である。ここに、職業輔導の社會的施設が社會教化として缺くべからざるものであるといふ理由がある。

美的價值に向ふ生活の一面を、すべての人が、それぞれ程度の差はあるに

もせよもつてをる以上、趣味の指導が如何に重要な社會教化の一部を形づくるかはおのづから明かである。愚劣なる享樂から民衆を解放して清新なる藝術の鑑賞と創造とに自らを忘れしめること、これほど現代人の神経過敏から來る病的行動を救ふのに與つて力あるものはないであらう。この意味に於て社會教化は健全なる娛樂機關の發達と高尚なる藝術の保護、創造とを顧慮せねばならぬ。

上述の諸項に留意することは、一般に民衆の體育保健の向上を前提してをる。衛生防疫思想の普及と並んで、積極的には社會體育的機關の増設とその方法の指導とを等閑に附することは出來ない。まして、體育が同時に徳性の涵養に資せられることを思ふとき、我々はこの方面の社會的施設の重要性を特に高調しなければならぬ。

第二章 社會教化の方法

第一節 幼兒及び兒童の社會教化

幼兒及び兒童の社會教化的方法としては、先づ彼等の遊び場の設置、玩具繪本等の教育的考案、童謡、童話等に關する會合、映畫會の開催、動植物園設備等であるが、思慮ある父母はこれ等を十分に利用するやうに心掛けなければならぬ。

兒童の教養に對し特に社會教化的意義をもつ二つの運動は、日曜學校及び少年團であるから、それ等に就いて少しく述べようと思ふ。

一般に日曜學校の運動がもつてをる教育的意味に關しては既に述べたが、現今我が國に於ける日曜學校の状態はどうなつてをるかといふと、ひとり基督教會附屬のものばかりではなくて、佛教寺院や神道方面にも日曜學校を設置するやうになつて來てをる。我が國に於ては學校で宗教教授をなし、宗教的儀式を行ふことを禁ぜられてをるのであるから、宗教心養成のためにも是非この種の社會教化的施設を通じて兒童の教養に資するところ

ろあらしめねばならない。しかし、注意すべきはその具體的方法に就いて十分に考慮し、適當なる時間をそれに配當するやうにすることである。

次は少年團の運動であるが、これは英國のベーデン・パウエル(Robert Baden Powell)將軍が一八九九年南阿戰爭の際マフエキング市がボア軍の重圍に陥つた時に、市中の少年を訓練し傳令、警備等の任務に従事せしめて効果があつたことから思ひついて、遂に一九〇八年にこれを創設したのである。いはゆる「ボーイスカウト」がそれである。かかる運動の根本精神は、少年を幸福に健康に、且つ有爲になし、以てよい市民、よい國民、よい人類の一員たらしめようとするところにある。我が國に於ても少年團が設けられ、少年團日本聯盟によつて統一せられてをる。この團に加入するものは先づ左記の誓約をしなければならぬ。

- 一、神明を尊び、皇室を敬ひます
- 二、人の爲、世の爲、國の爲に盡します
- 三、少年團のおきてを守ります

そして、そのおきての内容は、忠孝を勵み、公明正大、名節を生命とし、有爲にして世を益することを務とし、互に兄弟となり、すべての人を友とし、常に親切であつて、動植物を愛し、長上に信頼し、各團長に服従し、快活にして笑つて困難に當り、恭謙にして禮儀正しく勤儉質素であり、心身共に清いことである。かかる誓約をなし、そしてこれ等のおきてを守ることによつて少年の訓練をなすのであるが、その項目は要約して次の四つとすることが出来る。

- 一、個性の訓練(娛樂、觀察、自助)
- 二、手藝又は遊戯
- 三、健康の爲の運動獎勵
- 四、社會奉仕(消防の手傳、人命救助、その他)

少年に對して少年團があるのと並んで、少女に對して女子補導團(ガール・ガイド)がある。これは少年團よりは遅れて組織されたものであるが、やはりベーデン・パウエル將軍の主唱に成るものであつて、その訓練の要項は次の諸項である。

一、品性と知識

二、熟練と手工

三、健康と衛生

四、他人の爲の奉仕

なほ少年團、少女輔導團の外に、少年赤十字團、少年消防組、其の他の團體があつて、それぞれ特殊の教養を施してゐる。要するに、これ等の社會教化的施設又は團體の教養は、學校教育の補充の意味を有つべきものであつて、指導者の適切なる考慮に俟つところが多い。其故に、指導の位置にあるものは特に學校教育との關聯に留意し、純真な兒童少年をして、その受けつつある教養の間に矛盾を感じしめ、適從するところに迷はしめるやうなことがないやうにすべきである。

第二節 青年の指導及び自修

青年指導の方法は、消極的には、學校教育の効果を阻害する惡影響を蒙ら

しめないやうにし、積極的には、學校教育を基礎とし、一層高い一般的修養と職業的知識を與へ、そして彼等の社會生活を改善し、その生活を通して純潔な感情及び剛健な意志を養ふことである。そしてかかる青年教化の施設としてはいろいろあるが、その主要なものは青年團及び處女會である。

青年指導の方法として近時大に注意せられるやうになつたのは體育の方面であり、この方面に於ける教化的施設は著しく發展しつつあるけれども、しかしそれに伴ふ弊害も甚しく現はれて來てをる。のみならず、體育が直ちに意志及び感情の陶冶を十分に成し遂げることは出來ないのであるから、我々は青年の運動又は競技を適度ならしめると同時に、彼等の精神の教養に從來よりも一層力強く留意しなければならぬ。青年期はその思想の動搖し易く、極端に奔る傾向をもつて、大に警戒することを要するのであるから、これが指導者は意をここに致し、旅行及び博物館、美術館等を利用して美的感情を養ひ、高尚な讀み物によつて俗醜な文學の惡影響を防止し、文化財の各方面をば、幻燈、活動寫眞、講演會その他の施設を利用して彼

等の精神に提供しなければならぬ。職業的知識に職業道徳を結びつけ、更に進んで公民の権利義務を説いて、純なる公民的情操に培ひ、出来るだけ實行に導くことが肝要である。

この指導の精神を青年自らが體して自らを修養しようとするところに青年團又は處女會が起るのである。勿論、そこには自由なる結合の原理が支配せねばならぬ。従つて自治的色彩が濃く現はれてをる。近時獨逸に起りつつある青年文化の理想、青年運動は實に青年の權利と自尊心とを重んじ、彼等の修養を彼等自らの手に委ねることを意味する。其故に、青年團又は處女會に關與してこれに正しい方向を示すことは、直接ではなくてどこまでも間接の態度でなければならぬ。「信頼せよこそ青年教化の標語である。

第三節 成人教育

文化の不斷の發展に伴ひ、成人といへどもその自己陶冶を一日として缺

くことは出来ない。我々の生そのものが永遠に進みゆく文化創造の過程である以上、成人に對する諸般の社會教化的施設を必要とすることはおのづから明かである。

ここに成人教育とは現に正規の學校に通學してをらない成人に對し、種々の場所を利用して、夫々其の人の職業又は嗜好に應じた教化を施し、進んでは特殊の問題につき一層高い程度の講演をさかせ、又は通俗講演その他により、或は修養上に或は職業上に有益な精神上の糧を與へることを意味する。いはゆる大學擴張や高等國民學校の如きは、かかる教化の著しい現はれである。

大學擴張の運動は既に第十八世紀の末にその萌芽を發してをるが、近年甚しく發展し、英、米、獨は特に優れた施設をなしてをる。我が國に於ては明治四十三年頃から、社會の注意がこの方面に向けられて、最近著しく擴張普及せられるやうになつた。

高等國民學校の施設は丁抹に端を發したのであつて、グロントゥイীগ

(N. J. S. Grundtvig) 僧正がその創始者である。その後、瑞典、獨逸等に於ても各地に之を設置するに至つてをる。高等國民學校の特色は大體に於て左の三點に歸着する。⁽¹⁾

一、宗教・歴史等精神的文化を重んずる理想主義であること。

二、職業教育を施すけれども、それは副次的の位置を占めるに止まる點に於て職業學校と異なること。

三、補習學校の如く、小學校卒業生を直ちに入學せしめず、最も誘惑に陥り易く、道徳的修養の最も必要なる十八歳以後のものを收容し、已に一定の職業に従事せる人々に對し、職業上の堪能を得しめると共に、職業を道徳化せしめること。

その外、成人の自修團體としては在郷軍人會、婦人會等を擧げることが出来る。これ等はそれぞれ特殊の目的を以て仕事をしてをるのであるが、自己教養といふ點から一層その組織の改善を企圖すべきである。

(1) 篠原助市、教育學綱要、二五一頁—二五二頁。

第四節 社會教化的施設

一、圖書館

上述の社會教化が完全に行はれるためには、先づ以て善良な讀物の供給が必須の條件である。ここに一般に圖書館の、特に民衆圖書館の問題が生ずる。一國の文化の發達の程度は、其の國で出版された圖書の數と、其の國で保有せられる内外圖書の數量に比例するといはれるであらう。

圖書館には公開するものと特別の研究機關として公開されないものがあるが、將來は現に公開されてゐないものも出來得る限り公開し、現に公開されてをるものにあつては、出來得る限り公衆の利用を簡便ならしめ、圖書館の民衆化を圖らねばならぬ。この意味に於て民衆圖書館は書籍の選擇に注意し、民衆教化の理想、民衆の興味、及び地方の事情を參酌して、一般の人々の教化に資することを必要とする。

圖書館の民衆化といふ點から考察すれば、先づ第一に、圖書館は公民教育

の機關たるべきであつて、近い過去の著書、雜誌、新聞等の材料を綜合して、其の時々の政治、經濟、外交等の國內、國際の關係につき、公正な立場から世人が判斷を下し得るだけの材料を供給するがよい。第二は、兒童圖書館の設備を十分ならしめることであつて、少くとも各圖書館には兒童閱覽室を設け、管に圖書のみならず、兒童教養上適切な參考品を陳列し、圖書の選擇に留意してその使用を自由ならしめ、館員はこれを指導する制度を設けるべきである。かかる試みは既に緒についてをるが、一層その組織を改善して、兒童の生活の重要な要素たり得るやうにしなければならぬと思ふ。

二、博物館其の他の教育的觀覽施設

社會教化事業の一部として是非必要なものに、博物館、美術館、動物園、植物園、水族館等がある。これ等の施設は教化のために資せられるべきであつて、單なる陳列保存を以て満足せず、進んで一般民衆の研究の指導に努めるやうにしなければならぬ。

英、獨、佛、米等の諸外國に於けるかかる施設に比すれば、我が國のそれはまことに貧弱であつて、社會教化の上から見てどうしてもその思ひ切つた改善をなす必要がある。國立の代表的博物館が一日も早く完成することは我々の希望してやまぬところであるが、更に進んで、各地方に市民博物館のやうなものが多數設立せられることは目下の急務である。そしてかかる博物館を利用することにより種々の講演會、展覽會等を開催し、以て一般民衆の科學的知識を進め、國民的意識を熾にし、公民的涵養に資することを圖らねばならぬ。

美術館、動物園、植物園、水族館等に就いて見ても、我が國に於ける現状は諸外國のそれに到底比すべくもない。この點に於ても博物館と同様に大なる改善を施す必要に迫られてをる。

三、民衆娛樂の善導

國民に清新健全な娛樂を提供して、その趣味の向上を努めることは社會

教化の重要なる一方面である。劇研究会、映畫研究会、音樂會、演藝會等はかかる方面に屬する。特に最近非常に一般民衆の關心を惹きつけてをるラヂオ、活動寫眞を如何に指導すべきかは、社會教化にたづさはる者の大に考慮しなければならぬところである。ラヂオの教化的意義を尋ね、それを活用することは目前の課題であるが、それと同時に兒童のための活動寫眞館設立、學藝的映畫及び教育的映畫の普及、一般民衆のための映畫に對する檢閲制度の完備等を努める必要がある。

四、教化團體及び作業團體

社會教化的施設として見るべきものに諸種の教化團體及び作業團體があるが、前者は一般民衆を成員とし、宗教的信仰或は倫理的教養を中心として結ばれる共同體であつて、我が國の過去に於ても一般庶民の教化に與つて力があつたのであり、現在に於てもかなりの活動をしてをる。ただ美名を掲げて不良なる内容をもつ團體の撲滅を圖ると同時に健全なる教化的

團體の組織及び作用を善導するやうにせねばならぬ。

作業團體は青年又は成人の自發的組織になるものであつて、身體、知識、藝術、道德等の問題を共同に研究、演習すると共に、共同生活に必要な道德を實地に修練することを目的として結びついてをる。

しかし、教化團體の精神と作業團體の精神とはどこまでも相對立すべきものではなくて、宗教的又は倫理的教養の根柢に立つて、初めて作業的の實地修練は完成せられることを忘れてはならぬ。

以上大體に於て社會教化の目的及び方法を叙述し終つたのであるが、最後に一言する必要があることは、學校教育の當事者の社會教化に對する指導的地位に就いてである。勿論、社會教化的施設にはそれぞれ當面の責任を負ふべきものがあるには違ひないけれども、學校に於ける教育當事者は間接に、しかも密接に社會教化と結びつくことによつてのみ、學校教育それ自らの効果を多からしめることが出来るのであるから、そして進んでは社

會の文化維持及び文化開展に貢献すべきであるから、そこでどうしても社會教化の指導者としての地位を保つ必要がある。しかし、この地位を正當に保つためには次の二點に注意しなければならない。即ち、先づ第一に學校教育に従事するもの自らが、その自ら屬する文化共同體の時代精神を十分に領會し、如何にして社會教化を指導すべきかといふ自覺と手腕とを具へてをらねばならず、次に、社會教化の自由の原理を重んじて、被教育者の自發活動に訴へることを主とせねばならぬ。この意味に於て、先覺者としての學校教育者は永遠なる文化理想への旅に於ける一般被教育者の道づれであり、先達である。

教育學概論 終

昭和三年三月十五日印刷
昭和三年三月十八日發行

教育學概論

正價金參圓五拾錢

著作者 大關增次郎

發行者 阪本眞三

印刷者 寺井藤左工門

印刷所 株式會社秀英舍



不許複製

發行所

東京市神田區表神保町七番地
振替貯金口座東京八七二番

大同館書店

漢文教科研究用參考書

字野哲人著 ● 四書講義大學 菊判上製 三百頁 (拾零版) 金貳圓參拾錢 送料十八錢	字野哲人著 ● 四書講義中庸 菊判上製 三百餘頁 (拾六版) 金貳圓八拾錢 送料十八錢	教育學術會著 ● 文檢論語解義 四六上製 五百餘頁 (四版) 金貳圓八拾錢 送料十八錢	瀧澤良芳著 ● 文檢左傳選釋 菊判上製 四百餘頁 (再版) 金參圓八拾錢 送料廿七錢	田井嘉藤次著 ● 近支那時文寶鑑 四六上製 五百餘頁 (新刊) 金貳圓五拾錢 送料十八錢	吉波彦作著 ● 漢文研究要訣 四六上製 六百頁 (三版) 正價金參圓 送料十八錢	教育學術會著 ● 文檢四書研究 四六上製 四百餘頁 (八版) 正價金參圓 送料十八錢	石川誠著 ● 漢文科研究者の爲に 四六上製 五百餘頁 (拾壹版) 正價金參圓 送料十八錢	高木武著 ● 新撰漢文要義 四六上製 四百頁 (四版) 金壹圓八拾錢 送料十二錢	字野哲人著 ● 支那哲學史講話 菊判上製 四百餘頁 (卅三版) 金貳圓八拾錢 送料十八錢	字野哲人著 ● 支那哲學の研究 四六上製 五百餘頁 (拾版) 金貳圓八拾錢 送料十八錢
--	---	---	--	--	--	--	--	--	--	---

三色版・石版・寫眞版・木版等百餘圖を挿入し叙述せる書

◇小堀宇市氏新著◇ [最新刊出來發賣]

新式圖案構成法と其指導

（菊判一等クロス最上製美本箱入） 正價金四圓五拾錢 送料廿七錢

〔文檢小檢受驗必讀書〕
〔小中學圖畫教授指針〕
〔高等小學手工科指針〕
〔裁縫手藝染色寶典〕
〔工藝美術研究羅針盤〕

現在は圖畫教育改新變轉期に直而してゐる。自由畫の唱導は一大警鐘であつたが圖案方面を驅逐したかの感がある新しい圖畫教育は此方面の開拓によつて建設される。特に高等小學手工科は必須科となり此種の研究更に急を要するのである。本書の説述は實に實際的にして全般的是れらの絶好參考資料であつて小中學教師の指導書なるは勿論、工藝美術研究者や實務家・商工經營者・裁縫手藝染色研究者必携として無二の寶典である他の類書の追隨を許さぬ名著切に一本をすゝむる次第である。

目次

第一章緒言：第二章圖案の意義：第三章圖案法理論：（形式原理：圖案の形式法則：統覺と錯覺）：第四章圖案資料：（人爲資料：自然資料）：第五章便化法：（便化の意義：便化法）：第六章色彩法：（視覺：色彩：配色法：色彩の通俗的名稱）：第七章平面圖案法：（平面圖案法の分類：模様の單位：繪模様：單獨模様：帶模様四方連續模様）：第八章立體圖案法：（立體圖案法の意義と内容：立體圖案の構成：器物裏面の裝飾）：第九章圖案の應用：（印刷物：染織物刺繍物：陶磁器類：漆器類：金屬器：木製器具）：第十章圖案描寫用具：第十一章圖案の指導：（圖畫教育の變遷：圖畫教育の目的：圖畫科に於ける圖案：小學校に於ける圖案教材：圖案指導細目：圖案學習指導上考慮すべき諸點：圖案指導用具附録（文檢省圖畫科）問題集）

東京市神田區 大田同發館 振替 貯金 口座 東京 七八七 番

東京 神田 大同館發行圖書分類目錄

(哲學・思潮・倫理書類)

大同館發行圖書分類目錄	
市川一郎譯 ●	中等學校用哲學の一班 <small>基礎概念</small> 講義 菊判上製 七百頁 (新刊) 正價五圓八拾錢 送料廿七錢
市川一郎譯 ●	高尚なる理論を平易に講義せる 哲學概論 菊判上製 五百頁 (再版) 正價四圓八拾錢 送料廿七錢
稻毛詛風著 ●	哲學入門 四六洋製 二百頁 (五版) 正價壹圓五拾錢 送料十二錢
稻毛詛風著 ●	哲學教科書 菊判上製 五百頁 (新刊) 正價參圓八拾錢 送料十八錢
高橋敬視著 ●	西洋哲學史講義 菊判上製 五百頁 (再版) 正價參圓八拾錢 送料十八錢
大關増次郎著 ●	カントト研究 菊判上製 千頁 (三版) 正價七圓八拾錢 送料卅六錢
大關増次郎著 ●	カント哲學批判 四六上製 三百頁 (五版) 正價金貳圓 送料十二錢
野村隈畔著 ●	ベルグソンと現代思潮 四六上製 四百頁 (八版) 正價貳圓五拾錢 送料十二錢

大同館發行圖書分類目錄	
稻毛詛風著 ●	改訂オイケンの哲學 四六上製 三百餘頁 (拾版) 正價壹圓六拾錢 送料十二錢
吉田絃二郎著 ●	タゴールの哲學と文藝 四六上製 五百頁 (拾六版) 正價貳圓五拾錢 送料十八錢
本間久雄著 ●	エレンケイ思想の眞髓 四六上製 四百頁 (四版) 印刷中
宇野哲人著 ●	支那哲學史講話 菊判上製 四百餘頁 (卅二版) 正價貳圓八拾錢 送料十八錢
宇野哲人著 ●	支那哲學の研究 四六上製 五百餘頁 (九版) 正價貳圓八拾錢 送料十八錢
宇野哲人著 ●	二程子の哲學 四六上製 二百餘頁 (三版) 正價金貳圓 送料十二錢
紀平正美著 ●	改訂人格の力 四六上製 三百頁 (八版) 正價壹圓八拾錢 送料十二錢
紀平正美著 ●	自我論 四六上製 四百餘頁 (拾九版) 正價貳圓參拾錢 送料十八錢
一條忠衛著 ●	社會道徳論 四六上製 六百餘頁 (新刊) 正價參圓五拾錢 送料十八錢
一條忠衛著 ●	男女道徳論 四六上製 五百餘頁 (拾版) 正價貳圓五拾錢 送料十八錢
金子幹太譯 ●	倫理學序論 四六上製 三百餘頁 (再版) 正價金貳圓 送料十二錢

大 同 館 發 行 分 類 圖 書 目 錄

渡部政盛著	●最新哲學辭典	菊判上製 六百頁	正價五圓八拾錢 送料廿七錢
市川一郎譯	●教育の基礎なる哲學	四六上製 五百頁	正價貳圓五拾錢 送料十八錢
市川一郎譯	●教育の基礎たる社會學	四六上製 三百頁	正價金貳圓 送料十二錢
稻毛詛風著	●教育哲學の研究	菊判上製 五百頁	正價四圓五拾錢 送料十八錢
稻毛詛風著	●教育者のための哲學	四六上製 五百頁	正價貳圓五拾錢 送料十八錢
三浦藤作著	●國民道德要領講義	菊判上製 參百頁	正價貳圓八拾錢 送料十八錢
明治教育社編	●國民道德要領	四六上製 五百頁	正價貳圓五拾錢 送料十八錢
教育學術會著	●教育勅語 <small>戊申詔書</small> 解義	四六上製 四百餘頁	正價金貳圓 送料十二錢
一條忠衛著	●人格主義の社會觀	四六上製 四百餘頁	正價金貳圓 送料十八錢
坂上信夫著	●土地爭奪史論	四六上製 四百餘頁	正價金貳圓 送料十二錢
市川一郎著	●最新認識論講義	四六上製 三百頁	正價壹圓貳拾錢 送料十二錢

(教育・教育思想書類)

大 同 館 發 行 分 類 圖 書 目 錄

渡部政盛著	●集說 教育學概論	菊判上製 六百餘頁	正價五圓八拾錢 送料廿七錢
渡部政盛著	●最近教育學說の叙述及批判	菊判上製 五百餘頁	正價參圓八拾錢 送料廿七錢
渡部政盛著	●現代改造的教育思潮批判	四六上製 四百餘頁	正價貳圓五拾錢 送料十八錢
渡部政盛著	●低學年教育思潮批判	四六上製 四百餘頁	正價壹圓六拾錢 送料十二錢
渡部政盛著	●現代日本の教育學說と其批判	菊判上製 四百餘頁	正價參圓八拾錢 送料十八錢
渡部政盛著	●教育學術問題批判	四六上製 五百餘頁	正價貳圓八拾錢 送料十八錢
市川一郎著	●ペスタロッチ全集	四六上製 五百餘頁	正價貳圓五拾錢 送料拾八錢
小關愛村著	●人としてのペスタロッチ	四六上製 六百餘頁	正價貳圓八拾錢 送料十八錢
大久保龍著	●エレンケイ兒童の世紀	四六上製 五百餘頁	正價貳圓五拾錢 送料十八錢
原田實譯	●ベルクソン哲學と現代の教育	四六上製 四百餘頁	正價金貳圓 送料十七錢

大 同 館 發 行 分 類 圖 書 目 錄

稻毛詛風著	● 教育哲學の研究	菊判上製 五百餘頁	(新刊)	正價四圓五拾錢 送料十八錢
稻毛詛風著	● 創造本位の教育觀	菊判上製 五百餘頁	(再版)	正價四圓八拾錢 送料十八錢
稻毛詛風著	● 現代教育の主潮	四六上製 五百餘頁	(新刊)	正價貳圓八拾錢 送料十八錢
稻毛詛風著	● 人生と教育	四六上製 五百餘頁	(五版)	正價貳圓八拾錢 送料十八錢
稻毛詛風著	● 理想の教育者	四六上製 四百餘頁	(三版)	正價金貳圓 送料十八錢
稻毛詛風著	● 思想の力	四六上製 五百餘頁	(四版)	正價貳圓八拾錢 送料十八錢
前田徳一著	● 少年の思想と生活	袖珍上製 四百餘頁	(新刊)	正價壹圓八拾錢 送料十二錢
中村古峽著	● 變態心理の研究	四六上製 四百頁	(九版)	正價貳圓五拾錢 送料十八錢
永野芳夫著	● デューイ教育學說研究	四六上製 三百餘頁	(七版)	正價金貳圓 送料十二錢
永野芳夫著	● デューイ論理學說研究	四六上製 五百頁	(新刊)	正價金貳圓 送料十二錢
永野芳夫著	● 教育改造の原理	四六上製 三百餘頁	(再版)	正價金貳圓 送料十二錢

大 同 館 發 行 分 類 圖 書 目 錄

羽太銳治著	● 性慾教育の研究	四六上製 五百十頁	(拾四版)	正價金參圓 送料十八錢
中澤美治著	● 活動寫真と教育	四六上製 四百頁	(新刊)	正價金貳圓 送料十二錢
島田正藏著	● 體 育 原 論	菊判上製 五百頁	(好評)	正價參圓八拾錢 送料十八錢
稻毛詛風著	● 青年教師の歩める道	四六上製 五百餘頁	(八版)	正價金貳圓 送料十五錢
稻毛詛風著	● 若き教育者の自覺と告白	四六上製 四百餘頁	(拾四版)	正價壹圓八拾錢 送料十二錢
櫻井祐男著	● 生を教育に求めて	四六上製 六百餘頁	(六版)	正價貳圓八拾錢 送料十八錢
渡部政盛著	● 異端者の悲しみと歡ひ	四六上製 四百餘頁	(三版)	正價金貳圓 送料十八錢
大久保 龍著	● 生きんとする心の叫び	四六上製 四百餘頁	(五版)	正價金貳圓 送料十八錢
志垣 寬著	● 師範生のころ	四六上製 六百餘頁	(三版)	正價貳圓八拾錢 送料十八錢
大野武男著	● 自己の生活を凝視めて	四六上製 三百頁	(新刊)	正價壹圓貳拾錢 送料十二錢
新井順一郎著	● 私の國史とその教育	四六上製 五百頁	(新刊)	正價貳圓五拾錢 送料十八錢

大 同 館 發 行 分 類 圖 書 目 錄

(數學參考書類)

- 宗 敬著 ● 分類的算術解法の研究 四六上製 三百餘頁 (三版) 正價壹圓六拾錢 送料十一錢
 - 宗 敬著 ● 幾何學自發的學び方 四六上製 五百餘頁 (上卷) 正價貳圓五拾錢 送料十二錢
 - 宗 敬著 ● 幾何學自發的學び方 四六上製 四百餘頁 (下卷) 正價貳圓五拾錢 送料十二錢
 - 岡 千賀衛著 ● 珠算教授法精義 五菊判上製 五百餘頁 (拾版) 正價四圓五拾錢 送料十八錢
 - 大井全平著 ● 算術教授資料 本根的研究 上卷 四菊判上製 四百餘頁 (新刊) 正價參圓八拾錢 送料十八錢
 - 大井全平著 ● 算術教授資料 本根的研究 下卷 四菊判上製 四百餘頁 (新刊) 正價參圓五拾錢 送料十八錢
 - 内藤孫一著 ● プロセクトに低れる低學年算術教授 四六上製 三百餘頁 (五版) 正價金貳圓 送料十二錢
- (體育參考書類)
- 島田正藏著 ● 體 育 原 論 五菊判上製 (新刊) 正價參圓八拾錢 送料十八錢
 - 小野角次郎著 ● 文 體操科研究者の爲に 四六上製 四百餘頁 (好評) 正價壹圓八拾錢 送料十二錢

大 同 館 發 行 分 類 圖 書 目 錄

(生理衛生及動物科書類)

- 木村 泉著 ● 理論 學校の夏季聚落 五菊判上製 (新刊) 正價四圓八拾錢 送料廿七錢
 - 高橋與惣著 ● 實際 生理衛生教授の理論及實際 五菊判上製 (七版) 正價金四圓 送料十八錢
 - 井上金輔著 ● 生理衛生研究の爲に 四六上製 五百頁 (三版) 正價貳圓八拾錢 送料十八錢
 - 鈴木忠康著 ● 檢 模範動物學詳解 上卷 四六上製 五百餘頁 (新刊) 正價貳圓八拾錢 送料十八錢
 - 平松菊郎著 ● 參 模範動物學詳解 下卷 四六上製 五百頁 (新刊) 正價貳圓八拾錢 送料十八錢
 - 平松菊郎著 ● 參 模範動物學詳解 下卷 四六上製 五百頁 (新刊) 正價貳圓八拾錢 送料十八錢
 - 鈴木忠康著 ● 博物通論 豫想問題と其答解 洋六判 裝 (五版) 正價金參拾五錢 送料金貳錢
- (家庭書類)
- 島田慶一著 ● 家庭 日常飲食物の知識 四六上製 四百餘頁 (五版) 正價金貳圓 送料十二錢
 - 西川 裕著 ● 文化基調を成せる 化學工業講話 四六上製 五百餘頁 (新刊) 正價貳圓八拾錢 送料十八錢
 - 井上庄三著 ● 若き婦人の爲に [性と自我] 四六洋製 四百頁 (三版) 正價壹圓貳拾錢 送料十二錢

大 同 館 發 行 分 類 圖 書 目 錄

(歷史科參考書類)

岡部精一著	● 文檢	大日本歷史	菊判上製 千二百頁	(拾三版)	正價七圓五拾錢 送料卅六錢
高橋與惣著	● 文檢	東洋通史	菊判上製 七百餘頁	(拾三版)	正價五圓八拾錢 送料廿七錢
中村久四郎著	● 文檢	西洋通史	菊判上製 七百餘頁	(三版)	正價六圓八拾錢 送料廿七錢
小林 博著	● 文檢	西洋通史	菊判上製 七百餘頁	(三版)	正價六圓八拾錢 送料廿七錢
小林 博著	● 文檢	西洋通史	菊判上製 五百頁	(再版)	正價四圓八拾錢 送料十八錢
佐藤種治著	● 文檢	參考日本歷史精說	菊判上製 八百頁	(新刊)	正價六圓八拾錢 送料廿七錢
小林 博著	● 文檢	東洋歷史	菊判上製 五百頁	(新刊)	正價四圓五拾錢 送料廿七錢
小林 博著	● 文檢	東洋歷史	菊判上製 四百頁	(新刊)	正價四圓五拾錢 送料廿七錢
小林 博著	● 文檢	東洋歷史	菊判上製 四百頁	(新刊)	正價四圓五拾錢 送料廿七錢
山上德信著	● 文檢	西洋史研究者の爲に	菊判上製 七百頁	(新刊)	正價五圓八拾錢 送料廿七錢
佐藤種治著	● 文檢	日東史研究者の爲に	菊判上製 五百頁	(新刊)	正價參圓八拾錢 送料十八錢
西臺來太郎著	● 文檢	中等東洋史詳解	菊判上製 四百頁	(新刊)	正價金貳圓 送料十二錢

大 同 館 發 行 分 類 圖 書 目 錄

井原 儀著	● 文檢	德川時代通史	菊判上製 千三百頁	(三版)	正價七圓五拾錢 送料卅六錢
國史研究會著	● 文檢	足利十五代史	菊判上製 四百五十頁	(再版)	正價參圓八拾錢 送料十八錢
新井白石著	● 文檢	讀史餘論	菊判上製 四百頁	(七版)	正價金貳圓 送料十八錢
森山右一著	● 文檢	神皇正統記新釋	菊判上製 四百頁	(新刊)	正價貳圓五拾錢 送料十二錢
植松 安著	● 文檢	改訂古事記新釋	菊判上製 五百頁	(拾三版)	正價貳圓五拾錢 送料十八錢
植松 安著	● 文檢	假名の日本書紀	菊判上製 六百頁	(再版)	正價參圓五拾錢 送料十八錢
植松 安著	● 文檢	假名の日本書紀	菊判上製 六百頁	(再版)	正價參圓五拾錢 送料十八錢
荒井康夫著	● 文檢	平將門論	菊判上製 四百餘頁	(新刊)	正價金貳圓 送料十二錢
中村磔潮著	● 文檢	熱と力と 涙とに輝く 本願寺全史	菊判上製 四百餘頁	(再版)	正價參圓五拾錢 送料十八錢
松岡良友著	● 文檢	古今世界大海戰史	菊判上製 六百頁	(新刊)	正價貳圓八拾錢 送料十八錢
春藤與市郎著	● 文檢	古今世界大海戰史	菊判上製 六百頁	(新刊)	正價貳圓八拾錢 送料十八錢
鈴木周作著	● 文檢	日本遠征記	菊判上製 四百頁	(七版)	正價貳圓八拾錢 送料十八錢

大 同 館 發 行 分 類 圖 書 目 錄

(地 理 書 類)

- 栗原寅治郎著 教材 **改造世界地理精說** 六判上製 (拾四版) 正價五圓八拾錢 送料廿七錢
- 栗原寅治郎著 教材 **大日本地理精說** 上卷 六判上製 (九版) 正價五圓八拾錢 送料廿七錢
- 栗原寅治郎著 教材 **大日本地理精說** 下卷 六判上製 (九版) 正價五圓八拾錢 送料廿七錢
- 三村信男著 地理學通論 地文の部 全壹册 (三版) 正價六圓八拾錢 送料卅六錢
- 三村信男著 地理學通論 人文の部 全壹册 (三版) 正價六圓八拾錢 送料卅六錢
- 神田精輝著 地理教に於ける **地圖及略圖描法** の理論と取扱法 七判上製 (新刊) 正價五圓八拾錢 送料廿七錢
- 仲原善忠著 理法 **日本地理原論及細說** 七判上製 (五版) 正價四圓八拾錢 送料廿七錢
- 三村信男著 参考 **世界地理要綱** 四六上製 (新刊) 正價金貳圓 送料十八錢
- 栗原寅治郎著 郷土 **地理の研究** 四六上製 (五版) 正價金貳圓 送料十八錢
- 栗原寅治郎著 日本 **産業地理精說** 五判上製 (四版) 正價金四圓 送料十八錢

大 同 館 發 行 分 類 圖 書 目 錄

(英 語 書 類)

- 栗原寅治郎著 日本 **國勢地理教科書** 三判洋裝 (再版) 正價金九拾五錢 送料十二錢
- 栗原寅治郎著 大 **日本國勢地理** 五判上製 (三版) 正價參圓八拾錢 送料十八錢
- 栗原寅治郎著 學習 **地理教材有機的統合** 尋常科 (再刊) 正價四圓五拾錢 送料廿七錢
- 栗原寅治郎著 指導 **地理教材有機的統合** 尋常科 (再版) 正價五圓五拾錢 送料廿七錢
- 井原儀著 地學 **地熱の作用** 六判上製 (再版) 近刊 中
- 石原初太郎著 實驗を主としたる **自然地理學概論** 五判上製 (改訂) 正價五圓五拾錢 送料十八錢
- 川岸音二著 地 **理教授辭典** 四六上製 (新刊) 正價貳圓五拾錢 送料十八錢
- 伊東勇太郎著 最新 **英語獨習講義** 四六上製 (三版) 正價貳圓五拾錢 送料十八錢
- 伊東勇太郎著 鑑賞 **英語詩の味ひ方** 四六上製 (三版) 正價金貳圓 送料十二錢
- 伊東勇太郎著 文 **英語科研究者の爲に** 四六上製 (九版) 正價金貳圓 送料十二錢

(國文・國語書類)

大 同 館 發 行 分 類 圖 書 目 錄

石田吉貞著	●	平家物語新釋	四六上製 六百頁	(三版)	正價金參圓 送料十八錢
石田吉貞著	●	太平記新釋	四六上製 五百頁	(五版)	正價貳圓五拾錢 送料十八錢
尾上登良子著	●	頭註源氏物語大意	四六上製 五百頁	(八版)	正價金參圓 送料十八錢
龍澤良芳著	●	源氏物語新釋	菊判上製 八百頁	(再版)	正價六圓八拾錢 送料廿七錢
石川 誠著	●	參考古今和歌集新釋	四六上製 八百頁	(新刊)	正價參圓八拾錢 送料十八錢
石川 誠著	●	徒然草講義	四六上製 五百頁	(新刊)	正價貳圓五拾錢 送料十八錢
石川 誠著	●	萬葉集	古今和歌集 新古今集 四六上製 二百頁	(五版)	正價金參圓 送料十八錢
福永弘志著	●	竹取物語新釋	四六上製 五百頁	(三版)	正價壹圓參拾錢 送料十二錢
植松 安著	●	改訂古事記新釋	四六上製 三百頁	(拾五版)	正價貳圓五拾錢 送料十八錢
植松 安著	●	記紀の歌の新釋	四六上製 五百頁	(再版)	正價金貳圓 送料十二錢

大 同 館 發 行 分 類 圖 書 目 錄

小林榮子著	●	源氏物語活釋	前篇 四六上製 八百頁	(再版)	正價四圓八拾錢 送料十八錢
小林榮子著	●	源氏物語活釋	後篇 四六上製 六百頁	(新刊)	正價四圓八拾錢 送料十八錢
小林榮子著	●	伊勢物語活釋	四六上製 三百頁	(新刊)	正價金貳圓 送料十八錢
森山右一著	●	神皇正統記新釋	四六上製 五百頁	(新刊)	正價貳圓五拾錢 送料十八錢
岡田 稔著	●	十訓抄新釋	四六上製 五百頁	(新刊)	正價貳圓五拾錢 送料十八錢
吉村重德著	●	保元物語新釋	四六上製 四百頁	(新刊)	正價壹圓八拾錢 送料十八錢
吉村重德著	●	平治物語新釋	四六上製 四百頁	(新刊)	正價壹圓八拾錢 送料十八錢
吉村重德著	●	落窪物語新釋	四六上製 五百頁	(再版)	正價貳圓八拾錢 送料十八錢
小林榮子著	●	大鏡活釋	四六上製 四百頁	(新刊)	正價貳圓五拾錢 送料十八錢
小林榮子著	●	近松世話淨瑠璃集成	四六上製 八百頁	(拾版)	正價參圓八拾錢 送料十八錢
小林榮子著	●	近松時代淨瑠璃集成	四六上製 九百頁	(再版)	正價五圓八拾錢 送料十八錢

大 同 館 發 行 分 類 圖 書 目 錄

森山右一著	● 土佐日記新釋	四六上製 三百頁 (新刊)	正價壹圓五拾錢 送料十二錢
霜島勇氣男著	● 高等國文國語詳解	四六上製 五百餘頁 (新刊)	正價貳圓八拾錢 送料十八錢
石田吉貞著	● 國文法の解義と練習	四六上製 四百頁 (三版)	正價金貳圓 送料十二錢
小林好日著	● 新體國語法精說	菊判上製 五百頁 (三版)	正價貳圓八拾錢 送料十八錢
石川 誠著	● 文檢 國語科研究者の爲に	四六上製 五百頁 (拾四版)	正價貳圓八拾錢 送料十八錢
龍澤良芳著	● 文檢 國漢文科問題詳解	四六上製 六百頁 (三版)	正價貳圓五拾錢 送料十八錢
上田恭輔著	● 國語中の梵語の研究	袖珍形 二百頁 (再版)	印刷 中
松本譽三編	● 勅題選歌集並詠進法	四六上製 二百頁 (三版)	正價壹圓貳拾錢 送料十二錢
小林一郎著	● 芭蕉翁の一生	四六上製 六百頁 (八版)	正價貳圓八拾錢 送料十八錢
小林一郎著	● 芭蕉句集評釋	四六上製 五百頁 (再版)	正價貳圓八拾錢 送料十八錢
小林一郎著	● 芭蕉の細道評釋	四六上製 二百頁 (五版)	正價壹圓五拾錢 送料十二錢

大 同 館 發 行 分 類 圖 書 目 錄

(漢 文 書 類)

宇野哲人著	● 四書講義 大學	菊判上製 三百餘頁 (拾八版)	正價貳圓參拾錢 送料十八錢
宇野哲人著	● 四書講義 中庸	菊判上製 三百餘頁 (拾八版)	正價貳圓八拾錢 送料十八錢
吉波彥作著	● 精要 韓非子詳解	菊判上製 五百餘頁 (再版)	正價四圓八拾錢 送料十八錢
教育學術會著	● 文檢 論語解義	四六上製 五百餘頁 (四版)	正價貳圓八拾錢 送料十八錢
龍澤良芳著	● 文檢 左傳選釋	菊判上製 四百餘頁 (再版)	正價參圓八拾錢 送料十八錢
森山右一著	● 文檢 史記選釋	菊判上製 五百餘頁 (新刊)	正價四圓八拾錢 送料十八錢
教育學術會著	● 文檢 四書研究	四六上製 四百頁 (八版)	正價金貳圓 送料十二錢
吉波彥作著	● 漢文 自文訓讀復文 作文支那時文 研究要訣	四六上製 五百餘頁 (五版)	正價金參圓 送料十八錢
高木 武著	● 受驗 新撰漢文要義	四六上製 四百頁 (四版)	正價壹圓八拾錢 送料十二錢
田井嘉藤次著	● 最近支那時文寶鑑	四六上製 五百頁 (新刊)	正價貳圓五拾錢 送料十八錢

大 同 館 發 行 分 類 圖 書 目 錄

宇野哲人著	●支那哲學史講話	菊判上製 四百餘頁	(卅二版)	正價貳圓八拾錢 送料十八錢
宇野哲人著	●支那哲學の研究	四六上製 五百頁	(九版)	正價貳圓八拾錢 送料十八錢
吉谷義德著	●少年論語讀本	四六上製 五百頁	(再版)	正價貳圓五拾錢 送料十八錢
笠松彬雄著	●唐詩選詳解	四六上製 六百頁	(新刊)	印 刷 中
石川 誠著	●文檢用漢文科研究者の爲に	四六上製 五百餘頁	(拾壹版)	正價金參圓 送料十八錢
霜島勇氣男著	●高等漢文漢語詳解	四六上製 六百頁	(新刊)	印 刷 中
(受 驗 指 針 書 類)				
伊東勇太郎著	●文檢用英語科研究者の爲に	四六上製 三百餘頁	(九 刊)	正價金貳圓 送料十八錢
山上德信著	●文檢用西洋史研究の爲に	菊判上製 七百餘頁	(新 刊)	正價五圓八拾錢 送料廿七錢
小野角次郎著	●文檢用體操科研究者の爲に	四六上製 四百頁	(新 刊)	正價壹圓八拾錢 送料十二錢
笠井茂夫著	●文檢用習字科研究者の爲に	四六上製 四百餘頁	(三 版)	正價貳圓五拾錢 送料十八錢

大 同 館 發 行 分 類 圖 書 目 錄

小堺宇市著	●文檢用圖畫科研究者の爲に	四六上製 五百頁	(新 刊)	正價貳圓五拾錢 送料十八錢
鈴木忠庸著	●文檢用生理衛生研究の爲に	四六上製 四百餘頁	(新 刊)	正價貳圓八拾錢 送料十八錢
石川 誠著	●文檢用國語科研究者の爲に	四六上製 四百餘頁	(拾四版)	正價貳圓八拾錢 送料十八錢
石川 誠著	●文檢用漢文科研究者の爲に	四六上製 五百頁	(拾 版)	正價金參圓 送料十八錢
吉本俊二著	●文檢用法制經濟研究の爲に	四六上製 二百餘頁	(新 刊)	正價壹圓八拾錢 送料十二錢
吉本俊二著	●文檢用法制經濟問題詳解	四六上製 三百五十頁	(三 版)	正價金貳圓 送料十八錢
文檢研究會著	●文檢用修身科問題詳解	四六上製 四百餘頁	(三 版)	正價貳圓五拾錢 送料十八錢
龍澤良芳著	●文檢用國語漢文問題詳解	四六上製 四百八十頁	(新 刊)	正價貳圓五拾錢 送料十八錢
教育學術會著	●文檢 國民道德要領 問題解答	四六上製 三百頁	(五 版)	正價壹圓八拾錢 送料十八錢
文檢研究會著	●文檢各科受驗の手引	四六上製 六百頁	(三 版)	正價參圓五拾錢 送料十八錢
山田 耕著	●小檢より文檢まで 獨學研究者の爲に	四六上製 三百餘頁	(三 版)	正價壹圓八拾錢 送料十二錢

大 同 館 發 行 分 類 圖 書 目 錄

(文 藝 書 類)

- 吉田絃二郎著 ● 小説 生命の微光 四六上製 五百餘頁 (卅六版) 正價金貳圓 送料十八錢
- 吉田絃二郎著 ● 感想 生の悲劇 四六上製 三百餘頁 (廿壹版) 正價壹圓八拾錢 送料十五錢
- 吉田絃二郎著 ● 感想 心より心へ 四六上製 三百餘頁 (廿八版) 正價壹圓八拾錢 送料十二錢
- 吉田絃二郎著 ● 感想 生くる日の限り 四六上製 三百餘頁 (廿壹版) 正價壹圓八拾錢 送料十二錢
- 吉田絃二郎著 ● 感想 麥の丘 四六上製 三百餘頁 (拾壹版) 正價壹圓八拾錢 送料十二錢
- 吉田絃二郎著 ● 小説集 島の秋 四六上製 三百餘頁 (九版) 正價壹圓八拾錢 送料十二錢
- 吉田絃二郎著 ● タゴールの哲學と文藝 四六上製 五百餘頁 (拾六版) 正價貳圓五拾錢 送料十八錢
- 石川誠編著 ● 現代文學新選 四六上製 千餘頁 (三版) 正價四圓八拾錢 送料廿七錢
- 石川誠編著 ● 現代詩歌新選 四六上製 五百餘頁 (新刊) 正價貳圓八拾錢 送料十八錢
- 古屋利之著 ● 現代田園文學新選 四六上製 四百餘頁 (再版) 正價金貳圓 送料十二錢

大 同 館 發 行 分 類 圖 書 目 錄

- 井上康文著 ● 詩と散文集 情熱の嵐 四六上製 四百餘頁 (新刊) 正價金貳圓 送料十二錢
- 福田正夫著 ● 童謠・民謠詩傑作選集 袖珍上製 五百頁 (拾壹版) 正價壹圓八拾錢 送料十二錢
- 小林一郎著 ● 芭蕉翁の一生 四六上製 五百頁 (八版) 正價貳圓八拾錢 送料十八錢
- (少年少女文藝書類)
- 大久保 龍著 ● あふるゝ愛の學校 四六上製 四百頁 (三版) 正價壹圓八拾錢 送料十二錢
- 大久保 龍著 ● 少年少女小説 白ばら公子 四六上製 四百餘頁 (新版) 正價壹圓八拾錢 送料十二錢
- 森山右一著 ● 和歌俳句自習讀本 四六上製 四百頁 (三版) 正價金貳圓 送料十二錢
- 森山右一著 ● 鑑賞文章自習讀本 四六上製 四百餘頁 (三版) 正價壹圓貳拾錢 送料十二錢
- 守屋貫秀著 ● 綴方學習の泉 四六上製 四百餘頁 (再版) 正價壹圓八拾錢 送料十八錢
- 大久保 龍著 ● 上手に出來た綴方 袖珍上製 三百餘頁 (三版) 正價壹圓貳拾錢 送料十二錢
- 奥山壽太郎編 ● 全國小學兒童傑作童謠集成 四六洋製 四百頁 (再版) 正價壹圓貳拾錢 送料十二錢

大 同 館 發 行 分 類 圖 書 目 錄

(少年史傳叢書)

守屋貫秀著	●少年九郎判官義經	上卷	四六上製	(再版)	正價貳圓五拾錢
新井庄太郎著	●少年九郎判官義經	下卷	四六上製	(新刊)	正價金貳圓
守屋貫秀著	●少年會	我物語	四六上製	(三版)	正價壹圓八拾錢
大久保 龍著	●少年源賴光と四天王	(大江山 鬼退治)	四六上製	(新刊)	正價貳圓五拾錢
奈良島知堂著	●少年忠臣藏		四六上製	(新刊)	正價金貳圓
守屋貫秀著	●少年源氏	北條記	四六上製	(新刊)	正價金貳圓
桑田重良著	●少年古事記物語		四六上製	(再版)	正價壹圓八拾錢
宮崎久松著	●少年乃木大將		四六上製	(再版)	正價金貳圓
奈良島知堂著	●少年西鄉隆盛傳		四六上製	(新刊)	正價金貳圓
松本浩記著	●少年國史辭典		四六上製	(再版)	正價金貳圓
山口友吉著	●少年國史辭典		四六上製	(再版)	正價金貳圓

大 同 館 發 行 分 類 圖 書 目 錄

(教育の實際參考書類)

德重淺吉著	●養成國史教授の原理實際	外三名著	五學常用	(拾壹版)	正價參圓五拾錢
德重淺吉著	●養成國史教授の原理實際	外三名著	六學常用	(拾壹版)	正價四圓五拾錢
新井順一郎著	●現代を高める國史教授	現調とせる	菊判上製	(新刊)	正價四圓五拾錢
新井順一郎著	●現代を高める國史教授	基調とせる	全壹冊	(新刊)	正價四圓八拾錢
濱田壽郎著	●尋常國史學習問題と解答	小學	四六上製	(新刊)	正價壹圓貳拾錢
富山正義著	●文化高等國史教授要訣	史的	菊判上製	(新刊)	正價五圓八拾錢
德重淺吉著	●經濟的國史教授原義		四六上製	(新刊)	正價金貳圓
栗原寅次郎著	●學習地理教材有機的統合	指導	五學常用	(再版)	正價四圓五拾錢
栗原寅次郎著	●學習地理教材有機的統合	指導	六學常用	(再版)	正價五圓五拾錢
栗原宣次郎著	●鄉土地理の研究		四六上製	(七版)	正價金貳圓

大 同 館 發 行 分 類 圖 書 目 錄

內藤孫一著 ● プロジェク トに依れる 低學年算術教授 <small>四六上製 四百頁</small> (五版) 正價金貳 送料十二錢圓	岡千賀衛著 ● 珠算教授法精義 <small>菊判上製 六百頁</small> (拾版) 正價四圓五拾錢 送料十八錢	大井全平著 ● 算術教授資料 <small>菊判上製 六百頁</small> (下卷) 正價參圓五拾錢 送料十八錢	大井全平著 ● 算術教授資料 <small>菊判上製 五百頁</small> (上卷) 正價參圓八拾錢 送料十八錢	木下竹次 岡本清德著 ● 新學 習法 尋一二年の書方教授 <small>菊判上製 五百頁</small> (新刊) 正價參圓八拾錢 送料十八錢	奧山樹太郎著 ● 創造本位 兒童中心 新理科教授書 <small>四六洋製 四百餘頁</small> (新刊) 正價金貳 送料十五錢	井上金輔 外三名著 ● 生理衛生教 授理論實際 <small>菊判上製 五百頁</small> (七版) 正價金四 送料十八錢圓	內田祐士著 ● 尋常 國語讀本 試驗問題 <small>卷九の卷 全壹册</small> (新刊) 正價壹圓六拾錢 送料十二錢	甲斐一二著 ● 改造 新潮國語學 習法要義 <small>四六洋製 四百頁</small> (新刊) 正價壹圓五拾錢 送料十二錢	鴫田惠吉著 ● 尋常 小學 例身例話 原據の研究 <small>尋常科 三學年用</small> (新刊) 正價貳圓八拾錢 送料十八錢	鴫田惠吉著 ● 尋常 小學 修身例話 原據の研究 <small>尋常科 一二年用</small> (新刊) 正價金貳 送料十八錢圓
--	--	---	---	--	--	---	---	--	---	---

終